長洲町立長洲小学校　校長便り　No.6

みんなの居場所

令和4年5月9日(月)

頭の体操コーナー

裏に頭の体操クイズを載せています。小学校で学習することをベースに作っています。出来る出来ない関係なく、ご家族でチャレンジしてみてください。会話が広がります。

リスクへの備え

毎年年度初めには避難訓練が行われます。火災、地震、不審者対応…色々な種類がありますが、目的は一つ、子供達の命を守ることですね。ここで、思い出して頂きたい事件があります。大阪府の小学校で起きた痛ましい事件です。あの事件で「学校が安全な場所」という神話は崩れました。犯人は簡単に学校に侵入し、多くの尊い命を奪いました。衝撃的な事件であり、全国の学校が学校安全について改めて考え直し、対策を講じるきっかけとなった事件でした。

さて、長洲小学校の環境を見直してみると…!?外部から簡単に学校内、校舎内に侵入できる状況にあります。事件や事故が起こる可能性はゼロではないということです。では事件や事故が起こらないようにするためにはどうすればよいのか？　私の考えはこうです。安全な状態に慣れすぎず、子供も我々教師も事件や事故が起こるかもしれないという危機感を持ち生活することが大切だと思います。

リスクへの「備え」とは、個人が持つ「危機感」なのです。

勉強方法を更に考えてみたー②

前回の「みんなの居場所」でも、幾つかの学びの方法についてご紹介したところでした。他にも勉強の方法がないかなぁと考えてみました。

⑥各種コンテンツの利用

小学校の頃の夏休み、ラジオ体操、朝食、洗面等が終わって時刻は午前8時頃でしたでしょうか。当時の1日の計画は「9時から勉強」なんて書いていましたから、1時間は自由時間です。マンガを見たりテレビを見たりしていたのですが、NHK教育（今のEテレ）って、子供が好きな番組を結構やっていて、それを見ることが多かったですね。8時台はまだ子供向けのコンテンツはあっていませんでしたが、午前9時から午後3時頃までは小学生向けの学習番組が多かったようでした。これは見ているだけで結構学習しているもので、主体的に見ようとすることで更に成果が上がっていたようでした。何を言いたいかというと、テレビに限らず、教育コンテンツは至る所に氾濫しており、学びたいという気持ち（主体性）さえあればどこでも学習ができるということなのです。テレビの番組表は、月曜日の新聞に1週間分掲載されています。自主学習はかりじゃ楽しくありませんから、教育コンテンツを有効活用した方が楽しく学習できそうです。ちなみに、私が番組表でチェックしていたのは「高学年の理科」「高学年の社会」「朗読」等でした。

⑦乱読の勧め

読書の重要性について、更に突っ込んだ読書について考えてみましょう。読書の方法は基本的に自由で、楽しく読むことが何よりも大事だと思います。とはいえ、知識を蓄えたりスキルを高めたりするのが目的なら、その読み方も考える必要があります。私がやっている読書スタイルは「乱読」です。文字通り「乱れ読み」で、関連性も無いようなあらゆるジャンルの本を、とにかく読み漁るのです。私は小学生の頃は伝記やファンタジー、中学では小説、高校ではエッセイ等の本を中心に読んでいましたが、基本的に、一度面白いと思った作者やジャンルの本を一定期間読み続けていました。はっきりと意識して「乱読」するようになったのは大学に入ってからでした。「なんとなく題名に引っかかった」「表紙のデザインがなんか好き」「紙の質がなんか良い」とか、そんな理由で、直感で選んでいくのです。そして、理解できなかったり、面白くなかったりしたら、さっさと読むのをやめます。そして新しい本へと移っていくのです。これによって得られたのは、第一に、幅広い知識と視点でした。様々な分野の知識を持っていることで、仕事に活かせる可能性が広がるし、出てくるアイディアの数も増えます。

世の中には無数の本が溢れていて、毎年数え切れないほど新たに本が出版されています。何かを知りたいと思ったとき、つまずいたとき、図書館や本屋に行けば本当に求めている本と簡単に出会うことができます。子供達には、是非とも今のうちに「乱読」してみてほしいものです。

シリーズ「自分を語る」#6

「おじちゃんが家まで送るから車に乗りなさい。」

見知らぬ人に声を掛けられ、その人の車に乗ってしまう澤田兄弟でした。「いかのおすし」、当時の私がそんな言葉を知る由もありませんし、何といっても年齢5歳ですから、周りの大人を疑うことなど全くできませんでした。大人は優しくて、子供を助けてくれる人達でしたからね。今でもそれは変わらないと思いますが、最近はチョッと変わった人もいますからねぇ。

さて、そのおじさんの車に乗り込んだ私達兄弟は、中でおじさんに話しかけられます。

お：「おうちまでの道分かる？」　澤：「わかる…」
お：「じゃ教えてね」　澤：「うん。」
お：「・・・・」　澤：「そこばこっち…」
お：「こっちって右？」　澤：「おちゃわんば持つ方…」
お：「あ、左ね…」　澤：「そしてこぎゃん。」
お：「今度はおちゃわん？おはし？」　澤：「おはし。」
お：「右へと…」

家が近づくにつれて、私たち兄弟も笑顔を浮かべるようになっていきました。おじさんの質問に対しても、話さなくて良いことまで話していたように思います。このおじさん、変なおじさんではなくて本当に優しいおじさんだったのです。いつも通園バスで通る道を正確に進んでいきました。今では考えられないような行動でしたが、この時、私達兄弟にとっては最善の選択だったようでした。

暫くして、新地団地の我が家に到着し、私は自分で玄関の扉を開けようとしましたが、当然鍵がかかっていて開きません。おじさんがノックしてくれましたが、反応がなく途方に暮れていました。おじさんは私に尋ねました。

お：「お友達は近くにいる？」
澤：「おる、ともひさ君。」
お：「ともひさ君ん家に連れてって。」
澤：「うん、いいよ。」

人の家まで勝手に教えてしまう5歳の澤田でした。その友達の家も不在で、八方塞がりかと諦めていると、近所のおばちゃんが出てきてこう言いました。「ともひさ君はプールに行ったよ。」当時、プールというとーか所しかありませんでしたので、そこに連れられて行きました。おじさん大変だったと思います。見ず知らずの幼い兄弟に引っ張り回されて…。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）